

# 大館大火から45年

## 忘れてならない

## 『大火のまち』の教訓

### 市制施行後の大規模火災

年 月 日	出火場所	焼失棟数	死傷者数	備 考
昭和28年 4月29日	馬 喰 町	137棟	傷者 2名	風呂屋町(片町)大火
昭和28年 5月14日	下 代 野	62棟	—	(旧長木村)
昭和30年 5月 3日	御成町1丁目	508棟	死者 1名 傷者 20名	御成町1丁目 (大館駅前) 大火
昭和31年 8月18日	東大館駅前	1,369棟	傷者 16名	大館(東大館駅前) 大火
昭和35年 4月 9日	水 沢	21棟	—	
昭和36年 4月 8日	十 二 所	14棟	傷者 1名	
昭和37年 5月 7日	川 口	50棟	傷者 2名	
昭和37年 6月16日	沼 館	36棟	—	
昭和42年 5月 3日	田 町	17棟	傷者 4名	
昭和43年10月12日	御成町2丁目	290棟	傷者 1名	御成町2丁目大火

※大火とは、建物の焼損面積33,000㎡以上の火災をいう

今から四十五年前、昭和三十一年八月十八日、東大館駅前から出火し、大町通りを中心とした商店街全域と常盤木町、新町、長倉町など市の主要町内を焼き尽くした大館(東大館駅前)大火が発生しました。昭和二十六年の市制施行以来、この大火以外にも数多くの火災にみまわれたため、昭和三十年代から四十年代の大館は「大火のまち」と言われました。

その後、安心して生活できる不燃都市を目指して、道路の幅員拡張、区画整理、防火帯の設置、消火栓などの防火施設を充実させ、化学消防車の導入などの消防力の増強することで、市民と行政が一体となった火災復興事業が積極的に進められました。その結果、昭和四十三年の御成町二丁目大火から三十余年、大規模な火災は起こっていません。

現在、都市計画による着実な街づくりと近代的な装備を誇る消防力の前に「大火のまち」の不名誉な呼称は一扫されています。しかし、大火の導火線ともなる小さな火災は少なくなつてはいません。しかも、高齢者世帯の火災件数や火災による高齢者の死傷者数は増える傾向にあります。

今年も、例年になく火災が多発しています。「大火のまち」の教訓を忘れず、目ごころから家族ぐるみ、地域ぐるみで火災予防に取り組みましょう。